

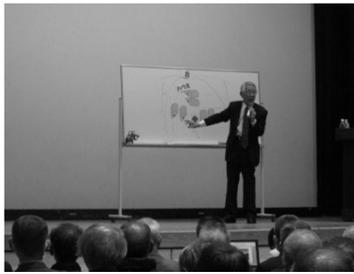
○日置市シンポジウム

一月二十八日、日置市伊集院中央公民館にて水土里サークル・中山間地域等直接支払事業シンポジウムが開催されました。会は、団体間の交流促進と農村集落の活性化を図るために毎年開催され、十回目の開催となる今年も、約二百五十名の参加がありました。

講師・日下田さんの話

シンポジウムでは、写真家の日下田紀三さんが「写真家からみる農村の変遷」をテーマに講演を行いました。日下田さんは、長年にわたりNHKの農事番組「明るい農村」の担当カメラマンとして、全国の農村を訪れ、その風土に触れ、地域と自然環境のつながりをカメラにおさめてこられました。(現在は屋久島にて山岳ガイドをされています。)

講演では「農村景観の魅力は、日本の魅力」であるとし、「農村は、多くの人が安心できる安定的な美しさだ。それは、豊かさや厳しさを併せ持つ自然と折り合いをつけながら築いてきた景観であり、農耕の拡大に合わせて試行錯誤を積み重ねてきた



【活動写真①講演の様子】

歴史が見られる。人と自然のいとなみの重なり合いを価値として見せてくれるのが農村である」とお話くださいました。

日本の風景

皆さんは「日本の風景」といえば、どんな風景を思い浮かべますか。山や川、田んぼの風景を思い浮かべた方も多いのではないのでしょうか。

わたしたちはお腹がすいたらご飯を食べます。その米は田んぼで作られます。田を耕すには水がなければ稲は育ちません。水の源は山にあります。①人や家②田んぼ③山④川がある風景こそ、皆さんが思い浮かべた「日本の風景」ではないでしょうか。

田畑の美しさは、田を耕し、その土地を利用する「人」がいて初めて成立します。わたしたちは農村に住んでいます。農村に住んでいると、国道や県道、市道を通るだけでは学校や職場にいけませんし、生活排水は農業用排水路にも流れます。わたしたちにとって、居住空間を守ることは、農村空間を守ることにつながります。そこに農業者や非農業者のボーダーはないと思います。皆でふるさとを守っていければと思います。

事例発表

山田梅木よか郷会

シンポジウムでは、東市来町の山田梅木よか郷ふれあい会(以



【活動写真②発表の様子】

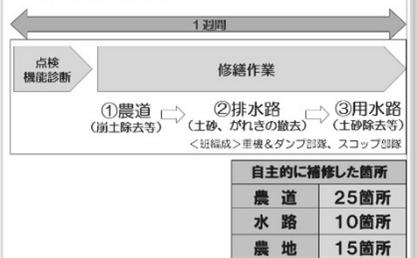
【蟄虫啓戸(すじごもり虫戸をひらく)七十二候の第七候。地中で冬ごもりをしていた虫たちが、早春の光を浴びて温もった土を啓(ひら)き這い出して来る時期。】

下「山田梅木会」代表の重水賢治さんから活動紹介がありました。山田梅木会は、平成十九年度から事業を続けています。

東市来は令和元年七月に最大時間雨量60ミリの豪雨にみまわれ、農地・農業用施設に大きな被害を受けました。重水さんは被害の様子を「田畑を守るという意識さえなくしてしまっただった。」と話し、復旧への取り組みについては「あれだけの災害でも大雨後すぐに役員が集まり『これだけの雨なら市を待っても用途がたたない。今できることから自分たちで取り組もう』と、一丸となり復旧作業を進めることができたのは、日頃から共同作業を通じ、地域のつながりを深めていたからだ。」と発表しました。

担い手不足や高齢化が課題となる中、近年の自然災害から地域をどのように守るか。市長からは「皆で手を取り合い、協力することが大事。」と話がありました。今後も事業を通じ、農業農村の環境保全活動を推進したいと思っています。

7月の豪雨災害を受けて復旧作業の方法



【山田梅木よか郷ふれあい会の復旧手順】
復旧は、みんなが利用する農道から